



田口 廣之  
議員  
(風)

**問** 今、世界的にバイオマスエネルギーの利用が注目されている。

太陽光発電は、変電所の容量等受電が限界の状況が続いている。

そこで今、注目を集めているのがバイオマスエネルギーである。

主なものに、バイオガス、バイオエタノール、バイオディーゼル「BDF」、木質バイオマスがある。

特に町として取組が出来るのは、バイオマス、BDF、木質バイオマスだと思われる。

今後の、町の方針を伺う。

**(1)**管内全19市町村でまとめた、十勝バイオマス産業都市構想の内容と、この取り組みを町はどう進めて行くのか。

**(2)**バイオガス、家畜のふん尿を利用した発電設備の計画申請があった場合、町としてどう取り組むか。

**(3)**BDFの原料の廃食用油の回収状況、その利用状況は怎么样了なのか。

**(4)**木質バイオマスは、主にペレット

**問**

バイオマスエネルギーの利用状況について

BDFは、町の公用車1台で使用しており、利用実績は216リットル

**答**

トストーブ等の暖房用になるかと思うが、公共施設のボイラーとの併設にはどうか。

**町長** **(1)**十勝バイオマス産業都市構想の将来像は、十勝は、豊富なバイオマスを圧倒的なスケールで多段階に循環活用できるポテンシャルを持っており、それらを最大限活かして、新たな産業・雇用の創出など、持続的な地域経済の確立、農・食・エネ自給社会の形成を目指す」とするもので、平成25年度から平成34年度の10年間を計画期間とし、バイオガス・バイオエタノール・BDF・木質バイオマスの4つのプロジェクトを推進することにより、新たな需要額が120億円発生した場合の地域内経済効果額を275億円、新規雇用の誘発を1423人としている。

町として、十勝全体でバイオマスの有効活用に取り組むことについては、重要かつ有効であるもの

と判断して、同構想に参加する意向を表明し、引き続き関係団体等と連携して、実施予定事業の把握に努めていきたいと考えている。

**(2)**バイオガス等の事業の計画が予定された場合には、その実現に向けて取り組むべきものと認識しているが、現時点では、国からその手法が示されていないことから、地域選定後に、帯広市が国に確認をする予定されている。

**(3)**幕別町消費者協会が、平成19年度から役場本庁舎と札内支所で始めたのを皮切りに、忠類総合支所、幕別北コミセン、札内南コミセンにも回収ボックスを設け、現在は5カ所で一般家庭から出る廃食用油の回収に取り組んでいる。

町では、常設保育所4カ所と学校給食センターで廃食用油の回収を行っており、加えて各種団体や町内の事業者等も独自に回収に取り組んでいるところである。

平成24年度における十勝管内での廃食用油の回収量は14万176

0ℓで、幕別町内での回収分は8413ℓである。

廃食用油は、管内の給油所等でも販売され、官公庁の公用車、営業車、市内路線バスなどの燃料として利用されているほか、本町の公用車では、ライトバン1台で使用しており、平成24年度の使用実績は216ℓとなっている。

**(4)**ペレットストーブは、現時点で灯油ストーブに比べ、本体そのものの価格が高いこと、熱源としてのペレットが灯油より割高で保管場所が必要になることなどの課題も存在しているが、今後のエネルギー施策や環境施策の進展には大切な取り組みであり、今後の施設整備に当たっては、その導入について研究を進めて行きたい。



BDF使用の公用車